



鍊鉄（れんてつ）

今から30年以上前のことです。くさりづくりの仕事に入った私は鎖について色々なことを知りたかったのですが、残念なことに誰も教えてくれませんでした。

『見て覚え！！』これが当時の職人氣質だったのです。

あるとき、イギリスの工業規格BS (British Standard) の中にくさりや関連金具が詳しく書かれていることを知り、辞書を片手に一生懸命読みました。そのときどうしても判らなかつたことばがロートアイアン (Wrought Iron=鍊鉄) でした。

現在の高炉による、製鉄法では1500度以上の高温で、鉄鉱石を溶かし炭素を沢山含んだ鉄を作ります。1300度程度までしか温度の上らない炉を使っていた時代では、半溶解の状態還元した、海綿鉄を加熱・鍛造することによって、使用可能な鉄を得ていました。この絵はイギリスで、描かれたものです。海綿鉄を水車ハンマーで鍛造し鍊鉄（れんてつ）を作っている様子を生き生きと描き出しています。



『鍛造』1772年ジョセフ・ライ（部分）
全体はホームページにてご確認ください。

鍊鉄 = (れんてつ、Wrought Iron : ロート アイアン)

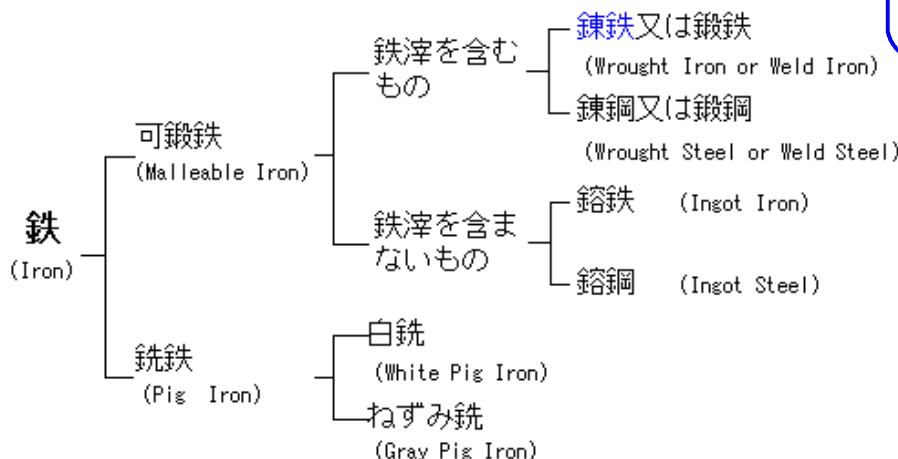
鉄滓を含む海綿鉄を水車ハンマーなどで鍛錬した鉄。炭素0.1%程度。

海綿鉄 = (かいめんてつ、Sponge Iron)

鉄鉱石または砂鉄を溶融温度以下に加熱し、木炭などを用いて還元して得られる多孔海綿状の鉄で還元鉄ともいう。

鉄の分類法

鉄と鋼 倭 国一 丸善(株) 明治43年



明治時代の鉄の分類は左のようなものだったのです。今とは少し違っています。

むらの鍛冶屋



何でもお気軽にお尋ねください！！

参考図書

ロイド船級協会よりのクリスマスカード。 (1998年)

鉄と鋼 製造法および性質 倭 国一 丸善(株) 明治43 (1910) 年

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/>
 e-mail ryou@memenet.or.jp